

じゅんじゅんから始めよう

わたしたちができることって何？

人間の行動や社会のあり方が、地球温暖化の進行に大きく影響を及ぼします。わたしたちの暮らし方を変えていくことで、温暖化を最低限のレベルに防止することができます。まず、電気などのエネルギーの無駄遣いに気をつけましょう。

●節電・節水を心掛ける

- ・ 必要のない電灯はこまめに消す
- ・ 家電製品を使用しないときは主電源を切る
- ・ 食器洗いやお風呂などで水を出しっぱなしにしない
- ・ 冷暖房は、夏は28℃以上に、冬は20℃以下に設定する

●自動車の燃料消費を節約する

- ・ 急な発進や空吹かしをやめて、停車中はエンジンを切る
- ・ なるべく自家用車の使用を避け、公共交通機関を利用する

●資源を守る

- ・ 買い物に行くときは、買い物袋などを持参する
- ・ エコマークなどのついた環境保全型の商品を買うよう心掛ける
- ・ 資源物は分別してリサイクルする

「ごみの減量化・資源化も温暖化防止の第一歩

ごみがたくさん出ると、多額の費用（1）が掛かるだけでなく、燃やしたり収集したり埋め立てたりする量も増え、その過程で二酸化炭素が多く出ます。

多くの市町村では、家庭からのごみ減量を図るため、「ごみ袋代にごみ処理手数料を上乗せして、ごみ袋の値段を高く設定する有料化方式」を採用しています。しかし、この方式では、ごみの減量に努めている人もいない人も同様の「ごみ処理手数料を初めから負担しなければなりません。また、2、3年程度で経済的負担に慣れてしまい、リバウンド現象（一旦ごみは減っても再び増え始めること）が起きてしまうという課題があります。

このような状況を踏まえ、本市では、ごみの減量化・資源化を促進し、市民の皆さんにごみの量に応じた適正な負担をしてもらうため、指定ごみ袋に無料または有料のごみ処理券を張って出す方法を導入しました。本市では、昨年と比較して年間15%の減量を目標に掲げ、無料ごみ処理券の配布を市民1人当たり年間60枚（単身世帯はミニ券120枚）に



新しいごみの出し方について、本紙にもたくさんの方からお便りをいただきました。ここでは、皆さんからのご意見やご質問の多かったものをいくつかご紹介します。

指定ごみ袋を丈夫にしてほしい。

市の指定ごみ袋の規格は、以前から売られている市販の透明ごみ袋と同程度の価格となるよう、通常、中程度の強度のもの（厚さが大と中は0・025mm以上、小とミニが0・02mm以上）として販売されています。ごみ袋を丈夫にするには、厚くする必要がありますが、例えば0・005mm厚くすると、その分だけ価格が20〜30%上がると言われます。「ごみ袋の価格をできるだけ安くしてほしい」というご意見もありますので、現在、従来の物より厚い指定ごみ袋

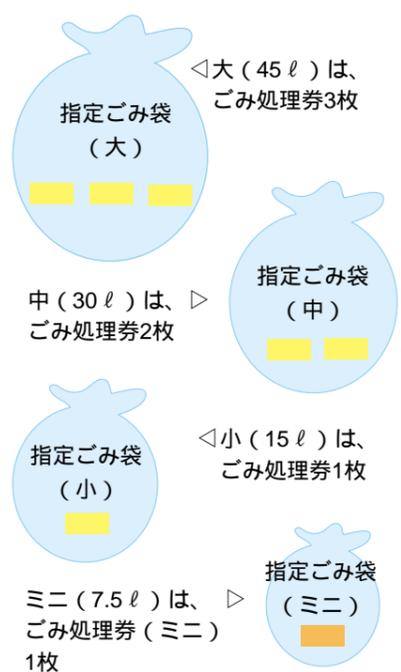
の種類も増やすように検討しています。

ごみ処理券がごみ袋からはがれないようにしてほしい。

ごみを入れる前にごみ処理券を袋に張ると、はがれにくくなります。紙類は、資源物として出せますが、感熱紙やプラスチック紙、においや汚れのついた紙などを除けば、名刺大以上の紙のほとんどは資源物（雑誌など）となります。

家庭の『燃やせるごみ』と『燃やせないごみ』の出し方

佐世保市指定ごみ袋を購入
指定ごみ袋にごみ処理券を張る
ごみステーションへ排出する



詳しくは各家庭に配布されているごみカレンダー・分別表をご覧ください。

CO2削減 / ライトダウンキャンペーン!

地球温暖化防止のため、環境省の呼び掛けで全国のライトアップ施設を一齐に消灯する「ブラックイルミネーション2005」が行われます。皆さんの家でも電気を消して、地球の将来を考えてみましょう。

と き 6月19日(日) 20~22時

- お尋ね
- 地球温暖化について
市環境保全課 (☎26-1787)
 - ごみの出し方について
市廃棄物リサイクル対策課 (☎32-2428)
 - エコプラザについて
市環境部総務課 (☎31-6520)
させぼエコプラザ (☎24-9547)

旧戸尾小学校跡地に「させぼエコプラザ」がオープンしました!

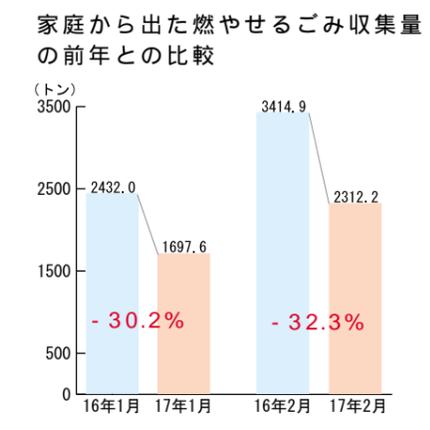
『環境』をキーワードに、市民が運営に携わる市民協働型の施設です。環境について学べる学習室や実験室のほか、粗大ごみとして捨てられたたんすや机などを補修し再生品化する工房があり、販売もしています。どうぞご利用ください。

開館日 毎週金~月曜10時~17時



エコプラザでは、粗大ゴミの補修作業や環境学習のお手伝いなどのボランティアスタッフを募集しています。お気軽にご相談ください。

1 本市の平成16年度のごみ処理費用 (約37億円) (一日一千万円)



しました。市民一人ひとりが一年間のごみをこの枚数の範囲内におさめると、目標を達成できます。また、適正に分別された資源物は無料で収集するので、ごみの減量化・資源化に努めた人は、ごみ処理手数料を負担することなくごみを出せます。ことし1月と2月に家庭から出された燃やせるごみの収集量は、皆さんのご協力により、前年の同月と比べて30%以上減量されています(左図参照)。今後、リバウンド現象が起こらないよう、ごみの減量化・資源化に努めましょう。



クリーン推進委員
新川 喜美枝さん(卸本町)

一人ひとりの心掛けから始まる『ごみの減量化・資源化』
以前は、資源物として出せる紙やペットボトルがごみとして出されていることが多く、ごみステーションで気付いたものは自宅へ持ち帰ることもありました。「指定ごみ袋にごみ処理券を張って出す」という新しいごみの出し方が始まり、出し方が少し複雑になりましたが、概ね新しいルールを守って出されています。また、ごみの量は以前と比べてかなり減っています。皆さん各家庭でごみの分別を徹底して行い、資源物として出す量が増えているようですね。
わが家では、食品トレイをお店に持っていったり、紙ごみを細かく分別したりして、ごみの減量に努めています。
ごみの減量化や資源化は、一人ひとりの心掛けが大切です。